

密厳院発露懺悔文

われらさんげ このか 我等懺悔す 無始より来た

妄想に纏われて 衆罪を造る

身口意の業 常に顛倒して

誤つて 無量不善の業を犯す

珍財を慳吝して 施を行ぜず

意に任せて 放逸にして 戒を持せず

屡々忿恚を起こして 忍辱ならず

多く懈怠を生じて 精進ならず

心意 散乱して 坐禅せず

実相に 違背して 慧を修せず

恒に 是の如くの六度の行を退して

還て 流転三途の業を作る

名を比丘に仮つて 伽藍を穢し

形を沙門に比して 信施を受く

受くる所の戒品は 忘れて持せず

学がくすすべ可りちぎき律儀は 廃はいして好このむなこと無なし

諸しよぶつ仏ぶつの厭えんの悪ところしたもう所はを慚はじず 菩ぼきつ薩くわうの苦ところ惱おそする所を畏おそれず

遊ゆ戯ぎし笑しやう語ごして 徒いたすらに年としを送おくり

諂てんのうそぎ誑むな詐ひ偽すして 空ひしく日すを過すぐ

善ぜん友ゆうに随したがわらずして 癡ち人にんに親したしみ

善ぜん根こんを勤つとめずして 悪あく行ぎやうを営いとむ

利り養やうを得えんと欲ほつしては 自じ徳とくを讃さんじ

勝しやうとく徳とくの者ものを見ては 嫉しつと妬いを懷いだく

卑ひ賤せんの人ひとを見ては 僞きやうまん慢しやうを生しやうじ

富ぶ饒にやうの所ところを聞きいては 希け望ぼうを起おこす

貧びん乏ぼくの類るいを聞きいては 常つねに厭おん離りす

故こらに殺ころし 誤あやまつて殺ころす有う情じやうの命いのち

願あがわとに取とり 密ひそかに取とる他た人にんの財ざい

触ふれても触ふれずしても犯おかす 非ひ梵ぼんの行ぎやう

口く四し意い三さん 互たがいに相そう続ぞくして

仏ほとけを觀かん念ねんする時ときは攀へん縁ねんを発おこし 經きやうを讀よ誦じゆする時ときは文ぶん句くを錯あやまる

仏ほとけを觀かん念ねんする時ときは攀へん縁ねんを發おこし 經きやうを讀よ誦じゆする時ときは文ぶん句くを錯あやまる

も ぜんこん な うそ う じゆう  
若し善根を作せば 有相に住し

かえつ りんねしようじ いん な  
還て 輪廻生死の因と成る

ぎやうじゆうが し し おか ところ かく ごと むりやう つみ  
行住坐臥 知ると知らざると 犯す所の是の如くの無量の罪

じ ひあいみん しょうじよ  
慈悲哀慈して 消除せしめたまえ

み ことごと ほつろ ことごと さんげ  
皆な 悉く発露し 尽く懺悔したてまつる

ないし ほつかい もろもろ しゆじよう さんごうしよさ かく つみ  
乃至 法界の諸の衆生 三業所作の是のごとくの罪

われみな あいか ことごと さんげ  
我皆な相代わつて 尽く懺悔したてまつる

さら また そ むく う し  
更に亦 其の報を受け令めざれ